

重点施策 4 教育環境条件の整備充実

【施策方針】

- 子どもたちにとってより望ましい教育環境の実現のため、平成30年2月に策定した八幡浜市学校再編整備第二次実施計画に基づき、小・中学校の学校規模の適正化による望ましい児童生徒数による教育効果の向上を図る。
- 科学的な知識、技能及び創意工夫の能力を養うため、理科教育備品の整備を図る。また、引続き、教材、管理備品、学校図書などの学習環境の整備を図るとともに、健康及び環境保全上の効果を増進する。
- 市内の学校施設の多くは築後30数年が経過し、雨漏り、施設の老朽化、内外装の損傷が著しく、早急な対応を迫られている。また、安心・安全な教育現場を確保するため、耐震指標IS値0.6未満の非木造の学校施設の耐震化を推進する。
- 経済的な理由により就学が困難な児童生徒等を支援するため、就学援助事業及び育英事業の充実を図る。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学校再編整備第二次実施計画の推進 ② 学校施設の整備充実
- ③ 教育機器の整備充実 ④ 施設の耐震化推進 ⑤ 長寿命化改良事業の実施
- ⑥ 就学援助事業及び育英事業の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 学校再編整備第二次実施計画の推進

ア 園児、児童、生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が年々進行しており、学級数の減少や完全複式の学級編成で取り組む学校がある現状となっている。また、校舎等の耐震化、施設設備の経年劣化問題などを抱えており、安全・安心な教育環境の整備・充実を図ることが継続の課題であり、今後も早期解消に向け取り組んでいく。

イ 八幡浜市学校再編整備第二次実施計画を基に統廃合対象校となっている各校のうち、双岩小学校の保護者に対して説明会を実施し、その後、統合に関する意識調査を実施した。川上小学校も説明会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となったため、保護者に説明会資料を配付し、それを基に意識調査を実施した。また、松柏中学校は、コロナ下であり、統合計画の見直しについて協議を始めたため、説明会は行っていない。今後も保護者の理解を得られるよう丁寧な説明を行っていく。

② 学校施設の整備充実

ア 川上小学校体育館爆裂修繕工事 6,672千円、宮内小学校プール塗装改修工事 14,423千円等の営繕工事を行った。

イ 小学校遊具改修工事（白浜小、神山小、千丈小、川上小、川之石小、宮内小）5,550

千円を実施し、緊急性の高い遊具を改修した。

ウ 神山小学校トイレ洋式化工事 627 千円、川之石小学校トイレ洋式化工事 495 千円、松柏中学校トイレ洋式化工事 671 千円を実施した。なお、今後は長寿命化改良工事等の大規模工事に併せて洋式化を推進していく。

③ 教育機器等の整備充実

ア 理科教育備品の整備（小学校）7,527 千円（1/2 国庫補助）

イ 教材・管理備品・学校図書等の整備 32,353 千円（前年度 149,229 千円）

（小学校）17,034 千円 （中学校）15,319 千円 （アの理科教育備品を除く）

④ 施設の耐震化推進

ア 松蔭小学校木造校舎改築工事 136,082 千円（小学校建設費：104,950,191 円、子育て支援課 放課後児童健全育成費：31,131,809 円）を行った。

⑤ 長寿命化改良事業の実施

ア 小・中学校長寿命化改良事業

長寿命化計画（実施計画）に基づき、計画的に施設の長寿命化を図っていく。

令和 3 年度は、喜須来小学校校舎長寿命化改良・体育館大規模改造事業実施設計 8,813 千円（R2 繰越）を行った。

また、実施設計に基づき、喜須来小学校体育館大規模改造工事 233,485 千円を実施した。

⑥ 就学援助事業及び育英事業の充実

ア 就学援助事業

要保護・準要保護児童生徒に対し、学用品、修学旅行等の費用の支給を行った。

また、新入学児童生徒に対して支給している「入学準備金」については、平成 29 年度新入学児童生徒分から、入学前の 1 月～3 月に支給を行っている。

イ 育英事業

八幡浜市育英会奨学資金の状況

奨学資金貸与者 0 件

返還者 69 名、返還額 8,951 千円

【事務事業点検評価委員意見】

○ 子どもたちは集団の中で、多くの友達の様々な考え方に触れ、多様な人間関係の中で切磋琢磨しながら社会性を身に付けていく。しかし、学校の小規模化が進むと人間関係が固定化したり、新しい友達が増えなかったりすることから友達関係の中で新たな考え方やものの見方に出合える機会が少なくなる可能性がある。市内のすべての子どもに平等かつ質の高い教育を行うためには、学校規模を適正化し、小規模校が抱える学校規模に起因する様々な教育課題を解決することで、すべての学校が教育効果を発揮できるようにする必要があると考える。今後も、学校再編整備第二次実施計画に基づき、子どもたちにとってより望ましい教育環境を提供するという観点から、統廃合や統廃合に伴う通学区域の変更など、学校の再編に取り組んでいただきたい。

○ 愛媛県教育委員会の再編計画案では、県立学校は今後 5 年以内に現在の 55 校から 44 校に

統合するとしている。これに対し、統合の対象となる高校を抱える市町では『地域から学校がなくなってしまう』と心配する声があがっており、卒業生や保護者などから説明を求める声が相次いでいる。県立学校の再編と市内の小・中学校の再編とでは状況が大きく異なるが、子どもたちや保護者、地域住民が抱える様々な不安や懸念が払しょくできるよう八幡浜市教育委員会では、今後も、統廃合対象校となっている各校の保護者や地域住民への丁寧な説明を継続して行っていただきたい。

- 学校の教育力の維持向上のためには、安全で快適な学習環境を整備する必要がある。老朽化した学校施設の改修による機能改善や社会状況の変化・多様な学習活動等に対応した学校施設の質的整備に計画的に取り組んでいただいております。心から感謝しています。また、各学校のICT環境の整備にも尽力していただいております。授業等における円滑な活用につながっている。今後も、学校施設を長期にわたり有効に活用するため、老朽化した学校施設の適時適切な維持管理や補修を実施するとともに、環境との共生、バリアフリー化、健康や耐震化の推進など安全性などに配慮した施設整備に努めていただきたい。
- 子どもが成長するにあたって、そこに家庭の生活基盤の影響があると考えられる。特に教育において、端的に高等教育以上の進学費用の捻出という点でその影響は明らかであるが、義務教育段階においても、家庭の所得格差が子どもの教育の不平等につながってしまうことが懸念されている。経済的理由により、修学の道が閉ざされることのないよう、今後も、子どもの貧困対策に取り組み、切れ目なく必要な支援を推進していただきたい。

【自己評価】

- 学校再編整備第二次実施計画に基づき、対象校となっている小学校の保護者に対して説明会を実施し、様々なご意見をいただいた。今後も懸案事項の解消に努めるとともに、保護者の不安を払拭するため、丁寧な説明を継続していく。
また、子どもたちが集団の中で、多様な考えに触れながら、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける教育環境づくりを進めていきたい。
- 老朽化した学校施設が多く、維持管理や修繕の実施を今後も継続していく必要がある。計画に基づく長寿命化事業を実施する際には、バリアフリー化など、社会状況の変化・多様な学習活動等に対応した学校施設の質的整備にも取り組んでいきたい。
また、各学校に整備したICT環境について、一人一台端末の活用が、導入時と比較してかなり進んできている。今後も現場の意見を吸い上げつつ、より充実したICT環境の整備に取り組んでいきたい。
- 児童生徒の家庭間の経済的格差を埋めるべく、国では令和2年4月より高等教育における給付型奨学金の大幅拡充、授業料等の減免や一部無償が制度化され、本市における貸与型奨学金制度への利用が年々減少傾向となっていたが、本年度については貸与者が0件であった。奨学金制度については、新たなステージの支援を検討する必要性を感じており、貧困の連鎖を断ち切れるような支援を近隣市町の状況を見定めつつ、他部署とも連携して検討していきたい。